

# 洛西竹林公園石仏調査レポート

丸川 義広

## 1. はじめに

昭和56年（1981）6月に開園した洛西竹林公園の東端の一角には、地下鉄烏丸線建設に伴う調査で出土した石仏・石造物（合わせて「石造物群」）が展示されている。織田信長が將軍足利義昭のために築城した旧二条城跡の堀・石垣から出土したものとして著名であるが、石仏の特徴や各々の出土地点についての十分な情報が提供されておらず、貴重な資料が十分に生かされていないのが実状であった。筆者も以前から同様の感想をもっており、機会があれば石仏が設置された状況と個々の石仏の型式ならびに出土地点を詳細に調べたいと考えていた。

2016年1月、突然の病を得てしばしの休職を余儀なくされた。入院・加療によって病状は改善し、自宅から通院可能となったが、そうなる時間を持て余し、自宅に比較的近い竹林公園を散歩コースとして歩き始めた。すると当初の欲求が沸いてきた。そこで現地に日参し、個々の観察に務めた。筆者にとっては、病を得たことは不幸であったが、加療中に多大な時間を与えられたことは、ある意味幸運でもあった。以下、調査によって判明した内容を報告する。

## 2. 石仏・石造物の出土状態

竹林公園に展示された石仏は、1974～1979年度にかけて実施された地下鉄烏丸線の調査時に旧二条城跡の堀（報告書では「濠」と表記）の埋土、ならびに石垣に使用されたものである。報告書（『京都市高速鉄道烏丸線内遺跡調査年報』。以下「年報<sup>1)</sup>」）をもとに、出土位置と内容を確認する。

『年報Ⅰ』では榎木町通の延長部に設定した「No.15」「No.24」「No.25」で堀・石垣を検出し、図版34に5基（石仏3、石造物2）が掲載されている。『年報Ⅱ』では出水通延長部の「X-2」「No.44」「No.52」、下立売通延長部の「X-1」、榎木町通延長部の「No.53」「No.54」で堀・石垣を検出し、図版49・50に石仏17基、図版51に石造物9基が掲載されている。『年報Ⅲ』では榎木町通延長部の「X-6」、丸太町通延長部の北側の「X-7」で堀・石垣を検出し、図版73に石仏6基、石造物1、図版74に石造物9基が掲載されている。いずれも実測図は掲載されていない。

石造物の出土位置と個数については、『年報Ⅲ』P284の表-38で整理されている。この表によると、出水通延長部から出土した石仏は43基、下立売通では26基。榎木町通では62基、丸太町通上るでは28基で合計159基となるが、これでは竹林公園に展示された石仏214基には足りない。しかしこの表では、「中立売～上長者町 溝」からも石仏58基が出土しており、両者を足すと217基となって竹林公園の実数に近い<sup>2)</sup>。また『報告書Ⅲ』では阿弥陀如来が132基と最多であること、供養塔の年号から室町時代の15世紀中葉を中心とすることが推定されている。

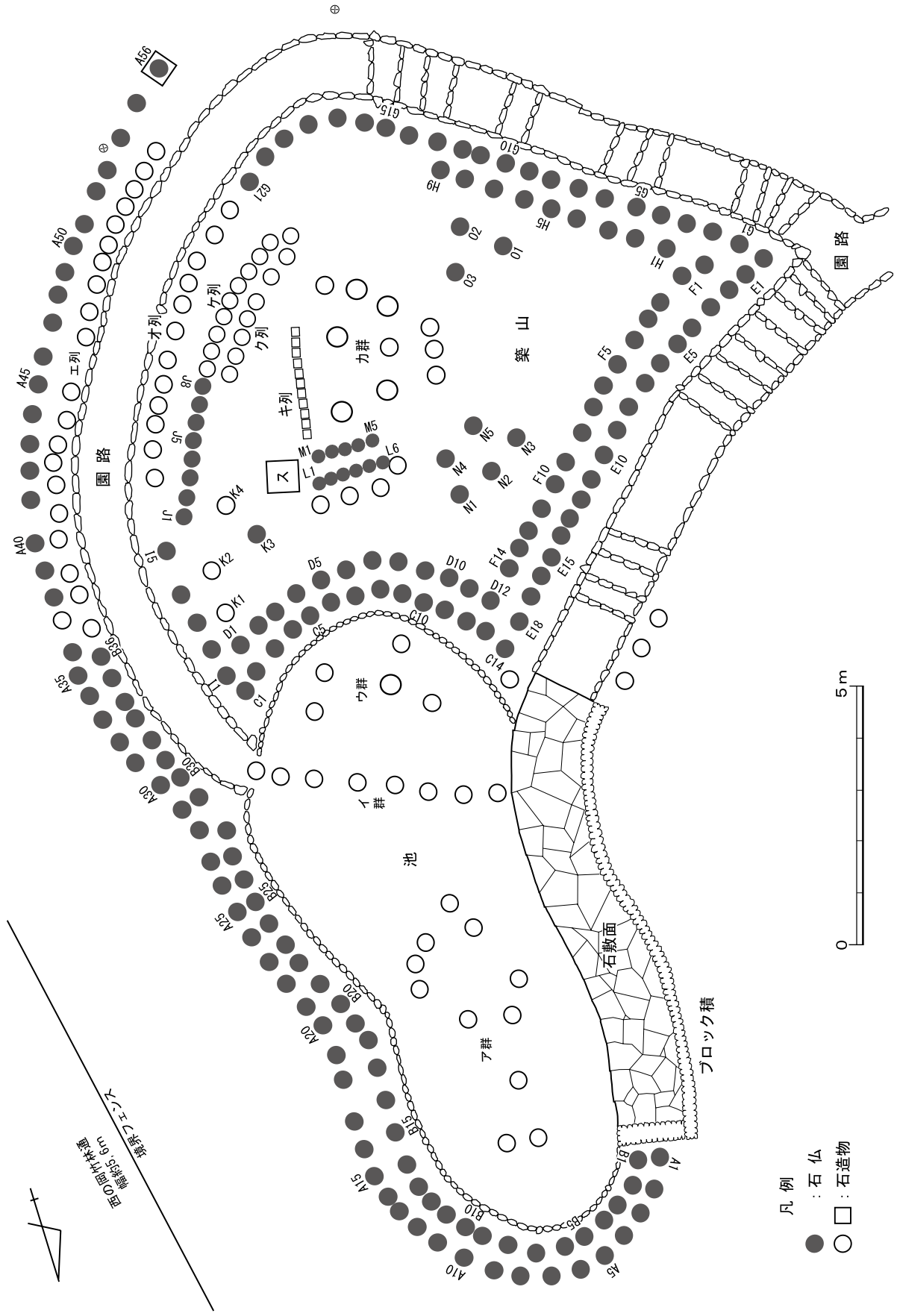


図1 竹林公園展示石仏・石造物配置図

### 3. 竹林公園に展示された石仏（図1・表1）

**作業方法** 全体の配置を把握するため概略図を作成した。次いで、列（群）を任意に設定し、石仏に個々名称を与えた。こうした作業を経ると、石仏・石造物は無造作に置かれたものではなく、類似するものを選別して置かれたことも理解された。個々の石仏はデジタルカメラで撮影し、データベース化し、要点をもとに表1を作成した。図1は京都市文化財保護課が保管する資料（以下「資料」）のうちの平面図を丸川が調整したものである。

**個数・配置・区分** 石造物群は竹林公園の南東隅の一角で、「西の岡竹林通」と名付けられた道路の西側に展示されている。展示区域をおおまかにみると、「池」に見立てた低い側と、「築山」が築かれた高い側に区分できる。そして導入路の園路を西から東に進むと園路は二股に分かれ、左に進むと池を横切るかたちで南に折れて築山の東裾から南裾を周回して元の二股の分岐点に戻る。石仏と石造物は園路に沿って配置されているが、手前には金属柵があり石造物群に直接触れることはできない。このため園路から離れた場所に置かれた個体は、間近で観察することはできない。

石仏（図1の●）はA列からO群までの15列（群を含む）に配置され、総数218基ある。この中には、石仏でない個体が4基含まれるため、石仏の総数は214基である。石造物（図1の○・□）はア群～スまで13列（群）に配置され、総数128基ある。両方の合計は346基である。今回は石仏のみを検討対象とする。

**出土地点の検討** 資料には、個々の石造物の出土地点（調査区）が記載されている。表1ではそれらを「出土地」として記した。旧二条城との位置関係を検討した結果、「D15～D20」「No.8」「No.13」「No.16」は旧二条城の北城外に該当することが判明した。これらは62基あり、さらに表1で「一」とした出土地不詳の11基を加えると、73基が旧二条城外からの出土であることが判明する。つまり、展示石仏214基のうち約3分の1が城外からの出土と認識できるのである。

次に、資料ではA列がA37（礎石）より先（南）が空白となっている。このことは、後日ここに19基が追加されたことを示す。では後日設置された19基はどこにあったのか？ 資料では石仏は215基とされるが、このうち、フ2（フ：資料での「石仏」の略。地蔵菩薩：「地」とする）・フ5（三尊仏）・フ6（阿弥陀三尊）・フ15（阿弥陀如来、以下「阿」とする）・フ46（阿）・フ51（阿）・フ62（二尊仏地蔵）・フ78（阿）・フ85（二尊仏立像）・フ96（阿）・フ115（二尊仏）・フ151（阿）・フ158（阿で墨書）・フ165（弥勒？）・フ167（地の立像）・フ182（阿）・フ194（阿）の17基は横線が引かれ、実際には使用されなかったことが推察される。<sup>3)</sup> 昭和54年11月には京都市考古資料館が開館し、1階東半には石仏21基が展示された（『昭和54・55年度 京都市考古資料館年報』P16）。内訳は、阿弥陀如来9、三尊仏2、地蔵菩薩2、釈迦如来1、二尊仏3の17基（他に板碑3一石五輪塔1）で、現状とほぼ一致することから、開館時に展示されたものが後日、A列後半に置かれたとみてよいだろう（玉村登志夫氏ご教示）。

当初の配置と現状に大きな変化はみられない。若干の差異を指摘すれば、J2・J3・J4は資料ではフ212・フ160・フ159でいずれも二尊仏とするが、現地は阿弥陀如来像の頭部片が置かれ

表1 石仏一覧表(現状での列・群ごと)

列数	仏の種類	観察所見	資料の番号 出土地 種類 備考	東西通名、年報○
A1	阿弥陀如来 坐像	印相は定印。完存?	フ84 No.15 阿	榎木町通、『年報Ⅰ』
A2	阿弥陀如来 坐像	耳表現。光背は壺形か? 膝から下埋没	フ210 X-7 阿	丸太町通上、『年報Ⅲ』
A3	阿弥陀如来 坐像	定印? 完存?	フ187 X-6 阿	榎木町通、『年報Ⅲ』
A4	阿弥陀如来 坐像	膝から下埋没	フ26 D18~19E 薬師如来	中立壳通~上長者町通間、『年報Ⅱ』
A5	阿弥陀如来 坐像	膝から下埋没	フ102 No.24 阿	榎木町通、『年報Ⅰ』
A6	阿弥陀如来 坐像	光背の頂部平坦。膝から下埋没	フ77 D15E 阿	中立壳通~上長者町通間、『年報Ⅱ』
A7	阿弥陀如来 坐像	定印?	フ76 No.24 阿	榎木町通、『年報Ⅰ』
A8	阿弥陀如来 坐像	定印? 完存?	フ105 No.52 阿	出水通、『年報Ⅱ』
A9	阿弥陀如来 坐像	光背の頂部平坦。完存?	フ55 No.53 阿	榎木町通、『年報Ⅱ』
A10	阿弥陀如来 坐像	膝から下埋没	フ37 D19~20E 阿	中立壳通~上長者町通間、『年報Ⅱ』
A11	阿弥陀如来 坐像	定印。完存?	フ168 No.52 阿	出水通、『年報Ⅱ』
A12	阿弥陀如来 坐像	定印? 完存?	フ31 D18~19E 阿	中立壳通~上長者町通間、『年報Ⅱ』
A13	阿弥陀如来 坐像	定印? 完存	フ169 - 阿	?
A14	阿弥陀如来 坐像	完存?	フ89 No.24 阿	榎木町通、『年報Ⅰ』
A15	阿弥陀如来 坐像	完存?	フ61 D18~19E 阿	中立壳通~上長者町通間、『年報Ⅱ』
A16	阿弥陀如来 坐像	完存?	フ24 D17EⅡ~Ⅲ 阿	中立壳通~上長者町通間、『年報Ⅱ』
A17	阿弥陀如来 坐像	定印? 完存	フ114 No.53 阿	榎木町通、『年報Ⅱ』
A18	阿弥陀如来 坐像	台座観察可。完存	フ141 No.53 阿	榎木町通、『年報Ⅱ』
A19	阿弥陀如来 坐像	完存	フ134 X-2 阿	出水通、『年報Ⅱ』
A20	阿弥陀如来 坐像	完存	フ132 X-1 阿	下立壳通、『年報Ⅱ』
A21	阿弥陀如来 坐像	完存	フ180 X-6 阿	榎木町通、『年報Ⅲ』
A22	阿弥陀如来 坐像	完存	フ156 X-2 阿	出水通、『年報Ⅱ』
A23	阿弥陀如来 坐像	定印。完存	フ36 No.15 阿	榎木町通、『年報Ⅰ』
A24	阿弥陀如来 坐像	完存	フ163 X-6 阿	榎木町通、『年報Ⅲ』
A25	阿弥陀如来 坐像	台座観察可。完存	フ108 No.53 阿	榎木町通、『年報Ⅱ』
A26	単独仏 坐像(光彫)	頭部は平坦。膝から下埋没	フ206 X-7 阿	丸太町通上、『年報Ⅲ』
A27	阿弥陀如来 坐像	膝から下埋没	フ11 No.44 w2 阿	出水通、『年報Ⅱ』
A28	阿弥陀如来 坐像	膝から下埋没	フ157 X-2 阿	出水通、『年報Ⅱ』
A29	阿弥陀如来 坐像	定印。首から上欠損	フ48 No.52 阿? 首欠	出水通、『年報Ⅱ』
A30	阿弥陀如来 坐像	頭部から上欠損。顔面欠損	フ101 D18~19E 阿?	中立壳通~上長者町通間、『年報Ⅱ』
A31	阿弥陀如来 坐像	定印。頭部から上欠損	フ152 No.53 阿	榎木町通、『年報Ⅱ』
A32	阿弥陀如来 坐像	定印。頭部から上欠損。顔面欠損	フ72 No.53 阿	榎木町通、『年報Ⅱ』
A33	阿弥陀如来 坐像	定印。衲衣に髷、頭部から上欠損	フ133 X-2 阿?	出水通、『年報Ⅱ』
A34	阿弥陀如来 坐像	体部上半は欠損	フ137 No.52 -	出水通、『年報Ⅱ』
A35	地藏菩薩? 坐像	頭部付近のみ残存。大型	フ192 D42EⅡ -	榎木町通~丸太町通間、『年報Ⅲ』
A36	地藏菩薩? 坐像	頭部付近のみ残存。大型。顔面欠損	フ193 D42EⅡ -	榎木町通~丸太町通間、『年報Ⅲ』
A37	阿弥陀如来 坐像	礎石。中央に円形柱座	ケ16 X-6 礎石	榎木町通、『年報Ⅲ』
A38	阿弥陀如来 坐像	定印。耳あり。光背頂部平坦。完存?	ヒ3 X-1 供養塔 E12	下立壳通、『年報Ⅱ』
A39	阿弥陀如来 坐像	膝から下埋没	ヒ20 X-7 供養塔 応永10年	丸太町通上、『年報Ⅲ』
A40	阿弥陀如来 坐像	膝から下埋没	ヒ26 D40 供養塔	榎木町通~丸太町通間、『年報Ⅲ』
A41	阿弥陀如来 坐像	定印。完存?	当初は不設置	
A42	阿弥陀如来 坐像	定印。完存	当初は不設置	
A43	地藏菩薩 立像(光彫)	右肩に錫杖をもつ。完存?	当初は不設置	
A44	阿弥陀如来 坐像	定印。衲衣の髷明瞭。完存	当初は不設置	
A45	阿弥陀如来? 坐像	頭部付近のみ残存。顔面欠損	当初は不設置	
A46	地藏菩薩 立像	頭部付近のみ残存	当初は不設置	
A47	薬師如来 坐像	来迎印。左手に薬壺? 膝から下埋没	当初は不設置	
A48	阿弥陀如来 坐像	完存?	当初は不設置	
A49	二尊仏 立像(方彫)	地藏菩薩。錫杖をもつ。屋根は欠損	当初は不設置	
A50	二尊仏 立像(方彫)	右は地藏菩薩。屋根は平頭。完存	当初は不設置	
A51	三尊仏 坐像(方彫)	屋根は尖頭。完存	当初は不設置	
A52	二尊仏 坐像(方彫)	屋根は尖頭。前面は3段。完存	当初は不設置	
A53	地藏菩薩 立像(光彫)	完存	当初は不設置	
A54	釈迦如来 坐像(円光)	来迎印で指開く。衲衣の髷。顔面欠損	当初は不設置	
A55	阿弥陀如来 坐像(霊光)	来迎印。梵字と「清明 ☆」線刻	当初は不設置	
A56	阿弥陀如来 坐像	定印。墨書。ガラス室で展示。完存。	当初は不設置	
B1	阿弥陀如来 坐像	定印? 完存?	フ111 X-1 阿	下立壳通、『年報Ⅱ』
B2	阿弥陀如来 坐像	完存?	フ30 D17EⅡ~Ⅲ 阿	中立壳通~上長者町通間、『年報Ⅱ』
B3	阿弥陀如来 坐像	完存	フ211 X-7 阿	丸太町通上、『年報Ⅲ』
B4	阿弥陀如来 坐像	完存?	フ25 D18~19E 阿	中立壳通~上長者町通間、『年報Ⅱ』
B5	阿弥陀如来 坐像	完存。頭部が黒い	フ112 - 阿	?
B6	阿弥陀如来 坐像	完存。頭部が黒い	フ60 D18~19E 阿	中立壳通~上長者町通間、『年報Ⅱ』
B7	三尊仏 坐像	中央大の三尊型式。屋根なし。完存	フ23 D17EⅡ~Ⅲ 多尊仏	中立壳通~上長者町通間、『年報Ⅱ』
B8	阿弥陀如来 坐像	完存	フ120 D15E 阿	中立壳通~上長者町通間、『年報Ⅱ』
B9	阿弥陀如来 坐像	膝から下埋没	フ53 D19EⅠ 阿?	中立壳通~上長者町通間、『年報Ⅱ』
B10	阿弥陀如来 坐像	定印	フ42 D18~19E 阿	中立壳通~上長者町通間、『年報Ⅱ』
B11	阿弥陀如来 坐像	完存	フ109 X-2 阿	出水通、『年報Ⅱ』
B12	阿弥陀如来 坐像	完存	フ12 No.44 s13 阿	出水通、『年報Ⅱ』
B13	阿弥陀如来 坐像	完存?	フ86 No.15 阿	榎木町通、『年報Ⅰ』
B14	阿弥陀如来 坐像	頭部先端から上欠損。	フ50 No.13 阿	中立壳下ル、『年報Ⅰ』
B15	二尊仏 坐像(方彫)	屋根は尖頭。阿弥陀如来? 完存	フ99 D17EⅡ~Ⅲ 二尊仏	中立壳通~上長者町通間、『年報Ⅱ』
B16	阿弥陀如来 坐像	膝から下埋没	フ68 D20EⅡ 阿	中立壳通~上長者町通間、『年報Ⅱ』
B17	単独仏 坐像(阿弥陀.光彫)	完存	フ140 X-2 阿	出水通、『年報Ⅱ』
B18	阿弥陀如来 坐像	完存?	フ67 D20EⅡ 阿	中立壳通~上長者町通間、『年報Ⅱ』
B19	阿弥陀如来 坐像	光背は幅狭い。膝から下埋没	フ127 X-1 阿	下立壳通、『年報Ⅱ』
B20	地藏菩薩 立像(方彫)	屋根は尖頭。完存?	フ116 No.52 - 板碑型 3-8	出水通、『年報Ⅱ』

列数	仏の種類	観察所見	資料の番号 出土地 種類 備考	東西通名、年報○
B21	阿弥陀如来 坐像	完存?	フ29 D18~19E 阿	中立壳通~上長者町通間、『年報Ⅱ』
B22	阿弥陀如来 坐像	完存?	フ20 No.15 阿	榎木町通、『年報Ⅰ』
B23	阿弥陀如来 坐像	完存	フ148 X-2 阿	出水通、『年報Ⅱ』
B24	阿弥陀如来 坐像	完存?	フ14 No.46 阿	出水通、『年報Ⅱ』
B25	阿弥陀如来 坐像	完存	フ106 No.54 阿 墨書	榎木町通、『年報Ⅱ』
B26	単独仏 坐像(阿弥陀.方彫)	屋根はない。完存	フ136 - 阿	?
B27	地藏菩薩 坐像	下半埋没。頭部から地藏菩薩か?	フ41 D18~19E 地藏菩薩	中立壳通~上長者町通間、『年報Ⅱ』
B28	阿弥陀如来 坐像	下半埋没	フ34 No.46 阿	出水通、『年報Ⅱ』
B29	三尊仏 坐像	中央大の三尊型式。屋根なし 完存?	フ100 D20Ⅱ 三尊仏	中立壳通~上長者町通間、『年報Ⅱ』
B30	阿弥陀如来 坐像	首で上下を接合。完存?	フ81 No.21 阿 身・頭分離	出水通、『年報Ⅱ』
B31	阿弥陀如来 坐像	首で上下を接合。定印。完存	フ64 No.15 阿弥陀三尊	榎木町通、『年報Ⅰ』
B32	阿弥陀如来 坐像	首から上欠損	フ40 D18~19E 阿? 首欠	中立壳通~上長者町通間、『年報Ⅱ』
B33	二尊仏 坐像(方彫)	下半埋没	フ131 X-2 二尊仏	出水通、『年報Ⅱ』
B34	五輪塔(方彫)	屋根が付く。肉彫りは右側浅い	ト44 D17EⅡ~Ⅲ 双体五輪	中立壳通~上長者町通間、『年報Ⅱ』
B35	阿弥陀如来 坐像	定印。光背は壺形? 足先。顔面欠損	フ97 No.52 阿? 墨書	出水通、『年報Ⅱ』
B36	阿弥陀如来 坐像	定印。結跏趺坐。頭部から上欠損	フ154 X-2 阿?	出水通、『年報Ⅱ』
C1	単独仏 坐像(阿弥陀.光彫)	頭部は平坦。完存	フ143 X-2 阿	出水通、『年報Ⅱ』
C2	阿弥陀如来 坐像	下部は埋没	フ38 D17EⅡ~Ⅲ 阿	中立壳通~上長者町通間、『年報Ⅱ』
C3	阿弥陀如来 坐像	膝から下埋没	フ8 - 阿	?
C4	阿弥陀如来 坐像	台座観察可。完存	フ147 X-1 阿	下立壳通、『年報Ⅱ』
C5	単独仏 坐像(阿弥陀.光彫)	完存	フ150 X-2 阿	出水通、『年報Ⅱ』
C6	阿弥陀如来 坐像	完存	フ22 D17EⅡ~Ⅲ 阿	中立壳通~上長者町通間、『年報Ⅱ』
C7	地藏菩薩 坐像	右手で錫杖をもつ。腰から下埋没	フ9 D18~19E 地藏菩薩	中立壳通~上長者町通間、『年報Ⅱ』
C8	阿弥陀如来 坐像	膝から下埋没	フ126 X-1 阿	下立壳通、『年報Ⅱ』
C9	阿弥陀如来 坐像	膝から下埋没	フ91 D29Ⅱ 阿?	出水通付近、『年報Ⅱ』
C10	阿弥陀如来 坐像	光背の先端を欠く	フ110 X-1 阿 E8	下立壳通、『年報Ⅱ』
C11	地藏菩薩? 立像(方彫)	頭部から地藏菩薩か? 下半は埋没	フ54 D19EⅡ 阿?	中立壳通~上長者町通間、『年報Ⅱ』
C12	阿弥陀如来 坐像	膝から下埋没	フ201 X-7 阿	丸太町通上、『年報Ⅲ』
C13	地藏菩薩? 坐像	仏頭より下埋没	フ199 X-7 地藏菩薩	丸太町通上、『年報Ⅲ』
C14	阿弥陀如来 坐像	仏頭より下埋没	フ203 X-7 阿	丸太町通上、『年報Ⅲ』
D1	地藏菩薩 坐像	腰から下埋没	フ33 D18~19E 地藏菩薩	中立壳通~上長者町通間、『年報Ⅱ』
D2	阿弥陀如来 坐像	完存	フ149 X-2 阿	出水通、『年報Ⅱ』
D3	阿弥陀如来 坐像	完存	フ21 D17EⅡ~Ⅲ 阿	中立壳通~上長者町通間、『年報Ⅱ』
D4	阿弥陀如来 坐像	完存	フ135 - 阿	?
D5	阿弥陀如来 坐像	定印。完存	フ129 No.53 阿	榎木町通、『年報Ⅱ』
D6	阿弥陀如来 坐像	完存	フ174 X-6 阿	榎木町通、『年報Ⅲ』
D7	阿弥陀如来 坐像	完存	フ13 D17EⅡ~Ⅲ 阿	中立壳通~上長者町通間、『年報Ⅱ』
D8	阿弥陀如来 坐像	完存?	フ184 X-6 阿	榎木町通、『年報Ⅲ』
D9	阿弥陀如来 坐像	完存?	フ7 No.44 阿	出水通、『年報Ⅱ』
D10	阿弥陀如来 坐像	完存?	フ10 No.44 阿 s1	出水通、『年報Ⅱ』
D11	阿弥陀如来 坐像	完存	フ83 No.52 阿 47	出水通、『年報Ⅱ』
D12	阿弥陀如来 坐像	完存	フ19 D17EⅡ~Ⅲ 阿	中立壳通~上長者町通間、『年報Ⅱ』
E隅下	阿弥陀如来 坐像	定印? 完存	フ32 D17EⅡ~Ⅲ 阿	中立壳通~上長者町通間、『年報Ⅱ』
E1	阿弥陀如来 坐像	完存	フ49 No.13 阿	中立壳下ル、『年報Ⅰ』
E2	阿弥陀如来 坐像	光背と頭部の先端を欠く	フ75 D19~20E 阿	中立壳通~上長者町通間、『年報Ⅱ』
E3	阿弥陀如来 坐像	完存	フ145 No.13 阿	中立壳下ル、『年報Ⅰ』
E4	阿弥陀如来 坐像	定印。完存?	フ191 D42EⅡ 阿	榎木町通~丸太町通間、『年報Ⅲ』
E5	阿弥陀如来 坐像	定印? 完存	フ18 No.44 阿 N1	出水通、『年報Ⅱ』
E6	地藏菩薩 坐像	両手で宝珠をもつ。完存	フ195 D42EⅡ 地藏菩薩	榎木町通~丸太町通間、『年報Ⅲ』
E7	阿弥陀如来 坐像	完存	フ103 D20Ⅱ 阿	中立壳通~上長者町通間、『年報Ⅱ』
E8	阿弥陀如来 坐像	完存	フ73 D18~19E 阿	中立壳通~上長者町通間、『年報Ⅱ』
E9	阿弥陀如来 坐像	定印? 完存	フ138 X-1 阿	下立壳通、『年報Ⅱ』
E10	阿弥陀如来 坐像	完存	フ90 No.15 阿	榎木町通、『年報Ⅰ』
E11	阿弥陀如来 坐像	完存	フ176 X-6 阿	榎木町通、『年報Ⅲ』
E12	阿弥陀如来 坐像	完存	フ213 X-6 阿	榎木町通、『年報Ⅲ』
E13	二尊仏 坐像(方彫)	屋根は尖頭で横線を入れる。完存	フ121 D20Ⅱ 二尊仏 板碑形	中立壳通~上長者町通間、『年報Ⅱ』
E14	地藏菩薩 坐像	完存?	フ177 X-6 地藏菩薩	榎木町通、『年報Ⅲ』
E15	阿弥陀如来 坐像	定印。完存	フ142 X-1 阿 J18	下立壳通、『年報Ⅱ』
E16	阿弥陀如来 坐像	完存	フ56 D18~19E 阿	中立壳通~上長者町通間、『年報Ⅱ』
E17	阿弥陀如来 坐像	完存	フ153 No.54 阿	榎木町通、『年報Ⅱ』
E18	阿弥陀如来 坐像	膝から下埋没	フ52 D18~19E 阿	中立壳通~上長者町通間、『年報Ⅱ』
F隅上	阿弥陀如来 坐像	完存	フ207 X-7 阿	丸太町通上、『年報Ⅲ』
F1	阿弥陀如来 坐像	完存	フ202 X-7 阿	丸太町通上、『年報Ⅲ』
F2	阿弥陀如来 坐像	定印。頭部の光背を欠く	フ59 D17EⅡ~Ⅲ 阿	中立壳通~上長者町通間、『年報Ⅱ』
F3	阿弥陀如来 坐像	光背先端欠損。	フ162 X-6 阿	榎木町通、『年報Ⅲ』
F4	阿弥陀如来 坐像	定印。頭部から上欠損。台座観察可	フ113 No.53 阿?	榎木町通、『年報Ⅱ』
F5	阿弥陀如来 坐像	定印? 顔面のみ欠損	フ87 No.52 阿?	出水通、『年報Ⅱ』
F6	阿弥陀如来 坐像	完存?	フ214 X-7 阿	丸太町通上、『年報Ⅲ』
F7	阿弥陀如来 坐像	光背と頭部の一部を欠く	フ79 D20Ⅱ 阿	中立壳通~上長者町通間、『年報Ⅱ』
F8	阿弥陀如来 坐像	定印。顔面のみ欠損	フ190 X-6 阿?	榎木町通、『年報Ⅲ』
F9	阿弥陀如来 坐像	完存。	フ205 X-7 阿	丸太町通上、『年報Ⅲ』
F10	阿弥陀如来 坐像	腰から下埋没	フ98 No.52 阿 墨書	出水通、『年報Ⅱ』
F11	阿弥陀如来 坐像	定印? 顔面のみ欠損。完存	フ117 No.52 阿?	出水通、『年報Ⅱ』
F12	阿弥陀如来 坐像	完存? 顔面のみ欠損。	フ74 D18~19E 阿	中立壳通~上長者町通間、『年報Ⅱ』
F13	二尊仏 立像(方彫)	屋根は尖頭。庇あり。完存	フ80 D17EⅡ~Ⅲ 二尊仏 板碑形	中立壳通~上長者町通間、『年報Ⅱ』
F14	阿弥陀如来 坐像	定印? 完存	フ155 X-2 阿	出水通、『年報Ⅱ』

列数	仏の種類	観察所見	資料の番号 出土地 種類 備考	東西通名、年報○
G1	阿弥陀如来 坐像	完存	フ183 X-6 阿	榎木町通、『年報Ⅲ』
G2	阿弥陀如来 坐像	定印。完存	フ107 No.53 阿	榎木町通、『年報Ⅱ』
G3	阿弥陀如来 坐像	定印？ 顔面のみ欠損	フ181 X-6 阿	榎木町通、『年報Ⅲ』
G4	阿弥陀如来 坐像	顔面のみ欠損。	フ92 D19～20E 阿？	中立亮通～上長者町通間、『年報Ⅱ』
G5	阿弥陀如来 坐像	仏頭付近のみ残る。	フ204 X-7 阿？	丸太町通上、『年報Ⅲ』
G6	阿弥陀如来 坐像	膝から下埋没。	フ200 X-7 一	丸太町通上、『年報Ⅲ』
G7	阿弥陀如来 坐像	頭部上半から上欠損	フ93 D19～20E 阿？	中立亮通～上長者町通間、『年報Ⅱ』
G8	阿弥陀如来 坐？像	肩から下埋没	フ28 No.52 阿	出水通、『年報Ⅱ』
G9	阿弥陀如来 坐像	完存？	フ69 D19EⅢ 阿	中立亮通～上長者町通間、『年報Ⅱ』
G10	阿弥陀如来 坐像	定印？	フ122 D20Ⅱ 阿	中立亮通～上長者町通間、『年報Ⅱ』
G11	阿弥陀如来 坐像	首から上欠損	フ16 No.52 一 首欠	出水通、『年報Ⅱ』
G12	阿弥陀如来 坐像	肩から下埋まる	フ45 No.44 一	出水通、『年報Ⅱ』
G13	阿弥陀如来 坐像	首から上欠損	フ178 X-6 阿？ 首欠	榎木町通、『年報Ⅲ』
G14	阿弥陀如来 坐像	首から上欠損	フ4 D15E-2 一 首欠	中立亮通～上長者町通間、『年報Ⅱ』
G15	阿弥陀如来 坐像	頭部のみ残存	フ130 X-1 一 首欠	下立亮通、『年報Ⅱ』
G16	？	大半は欠損	フ17 一 一 首欠	？
G17	？	大半は欠損。石仏か？	フ66 No.16 一 首欠	上長者町通、『年報Ⅰ』
G18	阿弥陀如来 坐像	首から上欠損。下半埋没	フ3 No.46 阿？ 首欠	出水通、『年報Ⅱ』
G19	阿弥陀如来 坐像	肩から上欠損	フ39 D18～19E 一 上半欠	中立亮通～上長者町通間、『年報Ⅱ』
G20	阿弥陀如来 坐像	首から上欠損	フ58 D17EⅡ～Ⅲ 一 首欠	中立亮通～上長者町通間、『年報Ⅱ』
G21	？	胸部上半欠損	フ94 No.52 一 首のみ	出水通、『年報Ⅱ』
H1	阿弥陀如来 坐像	定印。首から上欠損	フ128 No.53 阿？ 首欠	榎木町通、『年報Ⅱ』
H2	地藏菩薩？ 立像	首から上欠損。裏側も丸く加工	フ82 No.53 一 首・足欠	榎木町通、『年報Ⅱ』
H3	地藏菩薩 立像	脚部のみ。上部欠損	フ88 No.53 一 立像脚のみ	榎木町通、『年報Ⅱ』
H4	阿弥陀如来 坐像	首から上欠損	フ175 X-6 阿？ 首欠	榎木町通、『年報Ⅲ』
H5	阿弥陀如来 坐像	定印？ 首から上欠損。台座は文様なし	フ146 X-2 一 首欠	出水通、『年報Ⅱ』
H6	地藏菩薩 立像	脚部のみ。上部は欠損。台座は2段	フ209 X-7 一	丸太町通上、『年報Ⅲ』
H7	阿弥陀如来 坐像	首から上欠損。台座は文様なし	フ47 No.15 阿？	榎木町通、『年報Ⅰ』
H8	阿弥陀如来 坐像	定印 胸から上欠損。台座は文様なし	フ139 X-1 一	下立亮通、『年報Ⅱ』
H9	阿弥陀如来 坐像	首から上欠損。台座は成形なし	フ179 X-6 阿？ 首欠	榎木町通、『年報Ⅲ』
I1	二尊仏 立像(方彫)	完存？	フ104 No.53 二尊仏	榎木町通、『年報Ⅱ』
I2	阿弥陀如来 坐像	定印？ 胸から上欠損	フ27 D19～20E 阿？ 首欠	中立亮通～上長者町通間、『年報Ⅱ』
I3	阿弥陀如来 坐像	定印。首から上欠損	フ71 No.52 阿？ 首欠	出水通、『年報Ⅱ』
I4	地藏菩薩 坐像	両手で錫杖をもつ。首から上欠損	フ166 X-1 地藏菩薩 首欠	下立亮通、『年報Ⅱ』
I5	地藏菩薩 立像	脚部のみ	フ208 X-7 一	丸太町通上、『年報Ⅲ』
J1	地藏菩薩？	頭部のみ。頭部から地藏菩薩と推定	フ65 No.8 一 首のみ	一条通上ル、『年報Ⅰ』
J2	阿弥陀如来 坐像	頭部のみ	フ212 X-7 二尊仏	丸太町通上、『年報Ⅲ』
J3	阿弥陀如来？ 坐像	頭部のみ	フ160 No.53 二尊仏	榎木町通、『年報Ⅱ』
J4	阿弥陀如来？ 坐像	頭部のみ	フ159 D17EⅡ～Ⅲ 二尊仏	中立亮通～上長者町通間、『年報Ⅱ』
J5	阿弥陀如来？ 坐像	頭部のみ	フ197 X-7 一 首のみ	丸太町通上、『年報Ⅲ』
J6	単独仏(阿弥陀？)	屋根はない。完存？	フ70 D18～19E 阿 板碑形	中立亮通～上長者町通間、『年報Ⅱ』
J7	阿弥陀如来？ 坐像	胸から下埋没	フ1 D37Ⅲ 阿	下立亮通～榎木町通間、『年報Ⅱ』
J8	単独仏 坐像(阿弥陀？ 方彫)	肉彫は薄い。胸から上欠損	フ215 X-7 一 板碑形	丸太町通上、『年報Ⅲ』
K1		石塔。四面に光彫 半阿坐	フ198 X-7 四方仏	丸太町通上、『年報Ⅲ』
K2		石塔。四面に光彫 半阿坐	フ144 No.24 四方仏	榎木町通、『年報Ⅰ』
K3	厚彫？ 坐像	首から上欠損。裏側も一部欠損	フ196 No.44 一	出水通、『年報Ⅱ』
K4		石塔？ 仕切の両側を加工。大半欠損	ト56 X-7 灯籠の笠？	丸太町通上、『年報Ⅲ』
L1	地藏菩薩？	頭部から下埋没	フ44 D15EⅠ 一 首のみ	中立亮通～上長者町通間、『年報Ⅱ』
L2	地藏菩薩	頭部から下埋没	フ185 X-6 地藏菩薩 首のみ	榎木町通、『年報Ⅲ』
L3	阿弥陀如来？ 坐像	頭部から下埋没	フ123 一 一 首のみ	？
L4	阿弥陀如来？ 坐像	頭部から下埋没	フ124 一 一 首のみ	？
L5	阿弥陀如来？ 坐像	頭部から下埋没	フ35 No.52 一 首のみ	出水通、『年報Ⅱ』
L6	阿弥陀如来？ 坐像	頭部から下埋没	フ161 No.8 一	一条通上ル、『年報Ⅰ』
M1	阿弥陀如来？ 坐像	頭部から下埋没	フ125 No.15 一 首のみ	榎木町通、『年報Ⅰ』
M2	阿弥陀如来？ 坐像	頭部から下埋没。苔に覆われる	フ118 一 一 首のみ	？
M3	阿弥陀如来 坐像	頭部から下埋没	フ43 No.52 一 首のみ	出水通、『年報Ⅱ』
M4	阿弥陀如来 坐像	胸から下埋没	フ95 D29Ⅱ 一	出水通付近、『年報Ⅱ』
M5	阿弥陀如来 坐像	頭部から下埋没	フ119 一 一 首のみ	？
N1	阿弥陀如来 坐像	定印。首から上欠損	フ57 No.53 阿？ 首欠	榎木町通、『年報Ⅱ』
N2	阿弥陀如来 坐像	肩から下埋没。顔面欠損	フ164 X-2 一	出水通、『年報Ⅱ』
N3	阿弥陀如来 坐像	定印。首から上欠損。台座に連弁？	フ170 No.53 一 首欠	榎木町通、『年報Ⅱ』
N4	阿弥陀如来 坐像	定印？ 完存。顔面のみ欠損	フ172 No.24 阿	榎木町通、『年報Ⅰ』
N5	地藏菩薩 坐像	下半は埋没。顔面のみ欠損	フ63 No.24 地藏菩薩	榎木町通、『年報Ⅰ』
O1	阿弥陀如来 坐像	定印。首から上欠損。納衣良好	フ171 No.52 一 首欠	出水通、『年報Ⅱ』
O2	阿弥陀如来 坐像	定印？ 顔面のみ欠損。厚みあり	フ186 X-6 阿	榎木町通、『年報Ⅲ』
O3	厚彫 地藏菩薩 立像	首から上欠損。裏側も丸く加工	フ173 No.15 一 首欠 立像	榎木町通、『年報Ⅰ』

阿弥陀如来坐像は舟形光背半肉彫  
光彫：光背形彫込、方彫：方形彫込

阿：阿弥陀如来、一：不明  
D15～D20、No.8、No.13、No.16は旧二条城の北城外

る。B 31はフ64で阿弥陀三尊とするが現地は阿弥陀如来像、A 4はフ26で薬師如来とされるが現地は阿弥陀如来像である。

#### 4. 石仏の観察 (表1・2・写真1～9)

**型式** 石仏の多くは、後側を舟形光背に成形し、前面に仏の半身を彫り出すもので、これらを「舟形光背半肉彫」とする。光背は、中ほどがくびれるものを「壺形」(A55)とするが、舟形と壺形を区別することは難しい。A54は光背が「二重円光」を有する唯一のものである。

別に、前面を舟形ないし方形に彫り込み、一段深い部分に仏の半身を肉彫りするものを「光背形(あるいは方形)彫込」とする。単独仏、二尊仏、三尊仏があり、仏の種類は、阿弥陀如来、地藏



写真1 A44 阿弥陀如来像  
(舟形光背 半肉彫 坐像)



写真2 A54 釈迦如来像  
(舟形光背二重円光 半肉彫 坐像)



写真3 A43 地藏菩薩像  
(舟形光背 半肉彫 立像)



写真4 A47 薬師如来像  
(舟形光背 半肉彫 坐像)



写真5 A53 地藏菩薩像  
(光背形彫込 半肉彫 立像)



写真6 A52 阿弥陀如来像  
(方形彫込 半肉彫 二尊 坐像)



写真7 H2 地藏菩薩? 像  
(厚肉彫 立像)



写真8 N3 阿弥陀如来像  
(首から上を欠く)



写真9 F11 阿弥陀如来像  
(顔面を欠く)

表2 石仏の型式と個数

	型 式	個 数	%
1	阿弥陀如来 坐像	168	78.5
2	地藏菩薩 立像・坐像	19	8.8
3	薬師如来 坐像	1	0.5
4	釈迦如来 坐像	1	0.5
5	彫込 阿弥陀如来 坐像・立像	7	3.3
6	彫込 地藏菩薩 立像	3	1.4
7	彫込 二尊 坐像・立像	8	3.7
8	彫込 三尊 坐像	1	0.5
9	三尊 坐像	2	0.9
10	彫込 五輪塔像	1	0.5
11	立像・坐像、他	3	1.4
	合 計	214	100

菩薩が判断できる。同じ型式で五輪塔を薄く肉彫したものが1基（B 34）あり、仏身ではないがここに含める。三尊仏で中央の主仏が大きく脇侍が小さいものは舟形光背半肉彫に属する（B 7・B 29）。

**仏の種類**（表2） 舟形光背半肉彫では、阿弥陀如来坐像（結跏趺坐あるいは半跏趺坐）がほとんどを占める。膝上で両腕を組むもの（定印）が多く、釈迦如来坐像とは区別し難しいが、両

手で環を作るのが釈迦如来の禅定印、環の中央で指を立てるのが阿弥陀定印で、阿弥陀定印が多く確認できることから、石仏の多くは阿弥陀如来像として製作されたとみてよい。ただしA 54は、右手を施無畏印、左手を与願印とみて釈迦如来像と推定する。

地藏菩薩像は頭部に螺髪がなく、右手に錫杖、左手に如意宝珠をもつ。立像は衲衣の袖が長い（A 43）。右肩に錫杖を抱え、左手はそれをささえる形態が多い（A 43・C 7・I 4・N 5）。E 6は両腕を胸の前で合わせ、如意宝珠を抱きかかえる。薬師如来像は1体（A 47）のみ確認でき、右腕を胸前に上げる来迎印、左腕は膝の上において薬壺を持つ。

光背形（あるいは方形）彫込では、単独仏、二尊仏、三尊仏がある。単独仏は阿弥陀如来、地藏菩薩が確認できる。二尊仏では同じ規模の仏身が二体横に並び、坐像（A 52・B 15・E 13・F 13など）と立像（A 49・A 50）がある。坐像は両腕を膝上で組むため、阿弥陀如来とみられる。立像（A 50）は錫杖をもち、地藏菩薩と判明する。A 50は頭部が平坦であるが、それ以外は頭部が尖頭で、A 52・E 13・F 13は段を持ち、板碑形石碑との共通性が高い<sup>4)</sup>。三尊仏は1基（A 51）のみ確認でき、屋根状の頭部の下に同規模の仏身が三体横に並ぶ。光背をもつ三尊仏は2基（B 7・B 29）あり、中央の仏が大きい、阿弥陀三尊か釈迦三尊かの判断はできない。

**細部の表現** 頭部：石仏の多くは頭部が一段盛り上がり、螺髪<sup>5)</sup>の表現がみられる。

面相：目・鼻・口が表現される。耳が垂れた状態を表現したものがある（A 2・A 38）。

白毫：A 55で認められるが、大半は明瞭でない。

衲衣：褰の表現まで良好に残存するものがある（A 33・A 44・A 54・B 36・O 1）。

印相：両腕を膝の上で組むものが大半で、阿弥陀定印と判明するものが多数確認できる。右腕を胸に上げた来迎印が少数ある（A 47・A 55）。A 54は指先を伸ばすとみて釈迦如来と推定する。

足元：足を組んだ状態を表現したものがある（B 35・B 36）。特にB 36は結跏趺坐でも右足を上に乗せた吉祥坐で表現される。

脚部：H 3・H 6・I 5は脚部の先端で、形態からみて地藏菩薩立像の脚部とみられ、規模から大型品が推定される。O 3はそれらの上部が残存した例であろう。

台座：大半は埋没するが、稀に台座が観察可能できるものがある（A 18・A 25・C 4・F 4）。蓮弁文様が確認できるのは1基（N 3）である。台座に文様がないもの（H 5・H 7・H 8）、2



段に成形されたもの（H6）がある。

頭部の着色：A2・B2・B4・B5は頭部が黒色を呈し、顔料が塗られたように見える。B2は頭部から顔面に黒い顔料が垂れたように見える。

**破壊された石仏** 竹林公園に展示された石仏では、ほぼ全体が完存するもの、大半が壊れて破片となったものの他に、体の一部が欠損したのが見られる。壊れ方について注目すると、石仏の上半部を欠くもの（A34・G21・H8・I2・J8）、頭部から上を欠くもの（A30・A31・A32・A33・B36・F4・G7）、首から上を欠くもの（A29・B32・G11・G13・G14・G18・G19・G20・H1・H2・H4・H5・H7・H9・I3・I4・K3・N1・N3・O1・O3）などがある。うち地蔵菩薩像が2基（I4・O3）含まれるが、残りはすべて阿弥陀如来像である。

次に、全形を保ちながら顔面のみ壊された個体が16基確認できる（A30・A32・A36・A45・A54・B35・F5・F8・F11・F12・G3・G4・N2・N4・N5・O2）。うちA36・N5は地蔵菩薩とみられるが、残りはすべて阿弥陀如来像である。意図的に顔面が破壊されたことは明白で、強い憎悪の念を読み取ることが可能と思われる。

## 5. まとめ

洛西竹林公園に展示された石仏について、配置状況、石仏の型式、仏の種類、細部の特徴などを整理した。石仏の種類では阿弥陀如来坐像が圧倒的に多いこと、次いで地蔵菩薩像があり、釈迦如来像と薬師如来像が各1体含まれることを指摘した。形態が類似する阿弥陀如来と釈迦如来については、阿弥陀定印が多数確認できたことから、残りの多くも阿弥陀如来像であると推定した。

阿弥陀如来は浄土三部経（『阿弥陀経』『無量寿経』『観無量寿経』）によるところの西方極楽世界の教主である。平安時代後期に末法が意識されると、極楽浄土への憧憬が高まった。鎌倉時代には浄土宗、浄土真宗が阿弥陀如来への信仰を説き、幅広い階層に布教が浸透した。旧二条城跡から出土した石仏は室町時代（15世紀代）に製作されたものであるが、この時代の京都は浄土真宗（本願寺派）が勢力を拡大する時期であり、これらの石仏も信仰対象として製作されたのであろう<sup>5)</sup>。

阿弥陀如来像を検討したところ、破壊された痕跡が多数あることが明らかになった。体部上半が破壊されるものについては、運ばれる途中あるいは石垣に使用される段階で割られたとも考えられるが、顔面のみを破損する石仏については意図的に壊されたと考えた。石仏の破壊については、イエズス会宣教師ルイス・フロイスが工事現場に運ばれる段階での破壊を記録している。一方で、一向勢力と法華宗徒との抗争という京都内部における対立軸を考えた場合、両派は天文年間（1530年代）に激しい抗争を繰り広げた経緯があり、旧二条城が築造された永禄12年（1569）においても法華宗徒にとっての阿弥陀如来像は一向勢力を象徴する好ましくならぬ対象であったに相違ない<sup>6)</sup>。

地蔵菩薩についていえば、破壊の痕跡はあるものの数も少なく目立たない。地蔵菩薩は釈迦が入滅した後の六道（地獄道・餓鬼道・畜生道・修羅道・人道・天道）を往来し、衆生を救済する役割を持つ。後には子供を守護する性格も与えられ、存在自体が中立的であったがゆえに一向勢力と法華宗徒の対立軸とはなりえなかったのであろう。

夏の終わりになると京都市内では「地藏盆」が実施される。子供達の健やかな成長を祈願する辻ごとの祭祀であるが、そこに登場する石仏の多くは阿弥陀如来像であっても人々は「地藏さん」と呼んで信仰の対象とする。この阿弥陀如来と地藏菩薩の混然一体となった信仰は、阿弥陀如来から地藏菩薩に信仰の主体が移行して現在に至ったことを示している。旧二条城跡から出土した石仏は、阿弥陀如来像が圧倒的に多く、洛中においてはまだ阿弥陀信仰が強固であった頃の様子を示すものであろう。

謝辞：本稿を作成するに当っては、梶川敏夫、北田栄三、玉村登志夫、西村万里、長谷川行孝各氏のご協力、ご教示いただきました。記して感謝いたします。

註

- 1) 『年報Ⅰ』：『京都市高速鉄道烏丸線内遺跡調査年報』Ⅰ 1974.75年度 京都市高速鉄道烏丸線内遺跡調査会 1979年。『年報Ⅱ』：『京都市高速鉄道烏丸線内遺跡調査年報』Ⅱ 1976年度 京都市高速鉄道烏丸線内遺跡調査会 1980年。『年報Ⅲ』：『京都市高速鉄道烏丸線内遺跡調査年報』Ⅲ 1977～81年度京都市高速鉄道烏丸線内遺跡調査会 1981年
- 2) 表-38では、石仏217、石碑34、石塔39、建材23、その他35で合計348(基)、資料のうちの一覧表では、石仏215、石碑26、石塔56、石製器具19、建材21、その他43で合計380(基)、配置図の書き込みでは、石仏199、石碑23、石塔55、器具7、建材21、その他36で合計341(基)となり一定しない。
- 3) これらを集約すると、阿弥陀如来9(11=現在設置されている石仏数)、阿弥陀三尊1(なし)、地藏菩薩2(3)、弥勒?1(なし)、二尊仏3(3)、三尊仏1(1)で、ほぼ一致する。また、A43の地藏菩薩立像はフ167、A46の地藏菩薩頭部はフ2、A49の二尊仏地藏はフ62、A50の二尊仏立像はフ85、A51の三尊仏はフ5、A52の二尊仏は板碑形でフ115、A56の阿弥陀如来は墨書とあるのでフ158、来迎印をもつA54はフ165の弥勒?で、以上の8基は特定できるが、フ6の阿弥陀三尊とA53の屋根状の頭部をもつ地藏菩薩は該当例がない。A47は、筆者は薬師如来とみたが資料には薬師如来は見えない。
- 4) 「板碑形」と称され、石仏と区別される場合がある。
- 5) これらの石仏が当初どこに安置され、どのように信仰されたか、この点の解明は進んでいない。
- 6) 松田毅一・川崎桃太訳『日本史4』五畿内篇Ⅱ 中央公論社 1978年 P107「彼は多数の石像を倒し、頸に縄をつけて工事場に引かした。都の住民はこれらの偶像を畏敬していたので、それは彼らに驚歎と恐怖(の念)を生ぜしめた。(中略) 石の祭壇を破壊し、仏を地上に投げ倒し、粉碎したものを運んで来た。(中略) 寺院から取ってきた双手を挙げている2基の石像の仏を立てさせ、これら仏の頭上に、米を炊き湯を沸かす大鍋を置いた」。石仏破壊の原因をここに求めることが多いが、足利義昭は旧二条城が完成するまでは六条本圀寺を拠点としており、法華宗徒とは近い関係にあった。旧二条城築城時に阿弥陀如来像を破壊したのは法華宗徒の人々ではなかったか。